

夏から初冬に瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性の サツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科)

久保田 信

Mass appearance of a tropical cockroach *Opisthoptatia orientalis* (Blattaria, Blattoidea) in summer to early winter in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)

南方系ゴキブリ類の一種サツマゴキブリ *Opisthoptatia orientalis* を、瀬戸臨海実験所構内で 2009 年に初めて発見して以来 (白浜町では 1999 年に初記録)、約 10 年の間に個体群はだんだん増加し、2010 年 9 - 12 月の秋冬季に、瀬戸臨海実験所研究棟入り口付近から正門前までの舗装道路上に頻繁に出現した (檜山・久保田, 2002, 2010; 久保田, 2006a, b, 2009, 2010)。今回、2011 年初夏の 6 月に、早々とこれまでと同じ場所の研究棟入り口付近から正門前の舗装道路上に再出現した。これ以降、今までにない程の多数個体が、2011 年初冬まで継続して見られた。そこで、2011 年 6 月初旬から 11 月下旬まで半年間実施した 43 日にわたる計 63 回の調査の結果を報告する (本種は昼間は不在)。さらに、構内に高密度で潜んでいる箇所を記録する。

結果と考察

研究棟の南側の舗装道路で、街灯の立つ研究棟西端部から正門前までの真っ直ぐな道路 {以後、"研究道路" と単に略す} 上に出現したサツマゴキブリについて、調査年月日・時間、"研究

道路"以外の遭遇地点、及び個体数 (生体と死体に分けて) を以下に列挙する。

1. 2011 年 6 月 4 日 {以後、月日を 0604 の方式で示す} 6:00 図書館前舗装道路 1 死体
2. 0610 8:30 研究棟前舗装道路 1 死体
3. 0615 5:00 正門内側手前舗装道路 1 生体
- 4-1. 0625 2:02 水族館入口ゲート前舗装道路 1 生体
- 4-2. 0625 3:03 - 3:10 研究道路 7 生体
- 4-3. 0625 22:50 - 23:00 研究道路 8 生体
5. 0626 0:00 - 0:10 研究道路 22 生体
- 6-1. 0628 3:10 - 3:37 研究道路 23 生体 + 3 死体
- 6-2. 0628 21:05 - 21:38 研究道路 41 生体 (ペイントで黄色マーキング実施)
- 6-3. 0628 22:35 - 22:45 研究道路 0 マーキング個体 + 新たな 7 生体 (黄色マーキング実施)
7. 0629 6:09 - 6:15 研究道路 0
- 8-1. 0630 21:00 舗装された海岸道路の水族館入り口付近 1 生体

8-2.	0630	21:10 - 21:25	研究道路	22 生体 + 2 死体
			14 生体 + 6 死体	
8-3.	0630	22:40	構内の舗装された 海岸道路の実験所出口付近	2 生体
9.	0701	4:05 - 4:11	研究道路	0
10-1	0703	0:15 - 0:20	構内の舗装された海岸道路の実験所入口 から水族館入口まで	3 生体
10-2.	0703	0:20 - 0:26	研究道路	7 生体 + 4 死体
11-1.	0706	1:37 - 1:49	研究道路	7 生体
11-2.	0706	10:00 - 11:30	研究棟実習室北側 から講義室北側	2 生体
11-3.	0706	19:58 - 20:06	研究道路	2 生体
12.	0708	22:38 - 22:47	研究道路	13 生体 + 2 死体
13.	0711	19:59 - 20:11	研究道路	115 生体
14-1.	0714	19:50 - 20:04	研究道路	148 生体
14-2.	0714	22:24 - 22:34	研究道路	41 生体 + 4 死体
15.	0715	20:00 - 20:18	研究道路	105 生体 + 1 死体
16.	0720	23:15 - 23:28	研究道路	16 生体 + 2 死体
17-1.	0721	5:22	研究道路	2 生体 (1 ペア)
17-2.	0721	20:12 - 20:23	研究道路	27 生体
18-1.	0723	20:04 - 20:12	研究道路	34 生体
18-2.	0723	20:17	事務室東端前海岸道路	2 生体
19.	0724	21:31 - 21:39	研究道路	19 生体
20-1.	0727	19:48 - 19:58	研究道路	24 生体
20-2.	0727	20:04	事務室東端前海岸道路	1 生体
21-1.	0729	0:45 - 0:55	研究道路	22 生体 + 2 死体
21-2.	0729	21:31 - 21:41	研究道路	17 生体
22.	0730	19:48 - 19:58	研究道路	24 生体
23.	0807	23:30 - 23:47	研究道路	29 生体
24.	0808	20:32 - 20:47	研究道路	39 生体 + 2 死体
25.	0831	20:15 - 20:25	研究道路	15 生体
26.	0906	20:41 - 20:51	研究道路	6 生体 + 1 死体
27.	0907	19:48 - 19:56	研究道路	8 生体
28.	0913	2:24 - 3:32	研究道路	17 生体
29.	0924	19:52 - 20:00	研究道路	0
30.	0925	19:08 - 19:18	研究道路	38 生体
31-1.	0929	19:15 - 19:26	研究道路	17 生体 + 1 死体
31-2.	0929	21:57 - 22:06	研究道路	5 生体 + 2 死体
32.	1005	4:48 - 4:56	研究道路	1 生体
33.	1018	19:25 - 19:35	研究道路	22 生体 + 2 死体
34.	1023	19:13 - 19:23	研究道路	63 生体
35-1.	1024	5:08 - 5:16	研究道路	5 生体 + 3 死体
35-2.	1024	6:26 - 6:33	研究道路	2 死体
35-3.	1024	17:24 - 17:33	研究道路	1 生体 + 2 死体
35-4.	1024	19:24 - 19:33	研究道路	69 生体 + 2 死体
36-1.	1025	4:19 - 4:27	研究道路	35 生体
36-2.	1025	5:26 - 5:34	研究道路	4 生体
37.	1028	19:04 - 19:12	研究道路	43 生体 + 2 死体
38.	1101	18:50 - 18:59	研究道路	52 生体 + 2 死体

- 39. 1112 19:33 -19:42 研究道路 27 生体
- 40. 1123 18:06 - 18:20 研究道路
5 生体 5 + 2 死体
- 41. 1128 18:39 -18:49 研究道路 7 生体
- 42. 1129 18:49 - 18:58 研究道路 10 生体
- 43-1. 1130 2:54 - 3:05 研究道路 2 生体
- 43-2. 1130 4:45 - 4:54 0
- 43-3. 1130 5:50 - 5:57 0

上記のように、実験所構内の“研究道路”上で、2011年6月初旬から11月下旬にかけてサツマゴキブリが継続して現れた。発見したほとんど全ての死体にはアリ類がたかっていたので、死亡直後の新鮮な個体だった。本種は動きが鈍いので、所員や大学院生が車や徒歩などで通勤する際に、やむなく潰されたと推定される。

調査初期の6月15日に発見した1生体を、プラスチックケースに土と枯葉を敷き詰めて飼育したが、衰弱しており、ほとんど動かないまま2日後に死亡した（死亡原因は不明）。因みに、2011年6月15日7時45分の気温(曇天)は21.5°Cであった。この程度の気温ではサツマゴキブリは死亡しないであろう。

2011年6月中旬に構内でサツマゴキブリが高密度で潜んでいる箇所が確認された。6月15日、小林直正先生がその場所を知らせて下さり、その日に現場を確認できた。そこは実験所構内の北東端にある静修寮の周囲で、寮には過去数年間、住人がいないが、職員によって草木が刈り込まれ一周できる道がついている。この寮の西側脇に立てかけた数 m の長さの数本の棒切れの裏に、本種が密集していた(図1)。寮に続く構内の小道にも数個体の生きたサツマゴキブリと当日の6月15日に遭遇した。本種は実験所構内全体に拡がっている可能性があるが、人が住

む屋内には侵入しないゴキブリである。



図1. 2010年6月15日に瀬戸臨海実験所静修寮脇で密集していたサツマゴキブリ

オカヤドカリ類の調査をサツマゴキブリの調査同様に夜間にも実施しているが(久保田, 2011a)、サツマゴキブリを構内の西端部の水族館出口付近(構内の海岸道路を含む)から番所山の遊歩道全体などでみかけたことは一度もない(この様な不在のデータはここでは示していない)。稀な例だが、2011年7月23日と7月27日20時頃に、事務室(水族館)東端前の舗装された海岸道路に、計3個体の生体が出現したのが白浜半島でのサツマゴキブリの構内における最西端の記録である(それ以西がオカヤドカリ類の出現場所、ただしムラサキオカヤドカリの大型1個体は以東に出現=雑賀屋)。

ところで、“研究道路”に同じ個体が繰り返し出現しているか調べるために、2011年6月28日21時5分から22時45分までに出現した計48個体に黄色のペイントをスプレーしてマーキングした。だが、それ以後の調査でマーキング個体は全く調査場所へ現われなかったし、それ以外の地点でも再発見されず、調査の最終日までそれは続いた。ペイントの毒性が強すぎ、どこかで死亡したことも考えられるが、死体も

どの場所でも全く見当たらなかった。

2011年7月6日朝9時過ぎから15時頃まで所員総出で構内全体の草刈を行なった。それ以降はずっと降雨があったが、夜に雨が上がったので、1回の調査をしたところ、2生体しか見られず少数になった。しかし、その後の7月14日の調査になると、今回の調査で最多数の148個体が20時前後に出現した(久保田, 2011b)。

台風6号が接近し暴風雨となった直後の2011年7月18日も、定点の研究道路に少数個体が出現した。また2011年7月21日は降雨で調査時間もまだ小雨が降り止まなかったが、27個体もの比較的多数が出現した。

サツマゴキブリは定点調査区間へは夜間に出現するも、夜がしらみ始める早朝にはすべての個体がこの“研究道路”からいなくなった(例: 2011年6月29日-7月1日; 2011年10月23-24日; 2011年11月30日など)。構内には鳥類が多く、彼らは早朝に活動するので、恐らく行動が鈍いサツマゴキブリは、鳥類からの食害を避難していることになるのだろう。

サツマゴキブリの交尾は1例だけ目撃した。2011年7月21日5時22分、夜がしらみ始めた時、研究棟東端の研究道路に1ペアがいた。その写真を撮影するためカメラを研究室に取りにもどったが、1分以内にいなくなっていた。

2011年9月24日夜は出現してもいい時間帯の調査なのに、出現が確認できなかった。この時の気温は、この調査終了時間から翌朝まで16-19.5°C(20:05-6:45)であり、気温が少し低下した。しかし、それ以後も夜はしばしばかなり冷え込みがあったにもかかわらず、11月下旬まで比較的多数が継続して出現した。11月23日18:30から11月29日6:27までの最低・最高

気温は6.0-17.0°Cであった。

謝辞

貴重な密集情報を下さり、密集現場まで案内下さった小林直正先生に深謝致します。

引用文献

- 榎山嘉郎・久保田 信. 2002. 和歌山県白浜町産の熱帯系ゴキブリ類 3種(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 南紀生物, 44(2): 153-154.
- 榎山嘉郎・久保田 信. 2010. 和歌山県白浜町の海岸へ漂着した2個体目のサツマゴキブリ. KINOKUNI, (77): 22.
- 久保田 信 2006a. 久保田 信著 宝の海から 白浜で出会った生き物たち. 233pp., 紀伊民報, 田辺市.
- 久保田 信. 2006b. サツマゴキブリ和歌山県白浜町の海岸へ漂着. KINOKUNI, (70): 10-11.
- 久保田 信. 2009. 瀬戸臨海実験所構内に出現した熱帯性ゴキブリ類の第3番目の種サツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 22: 36.
- 久保田 信. 2010. 秋冬季に瀬戸臨海実験所構内に頻繁に出現した熱帯性のサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 23: 65-66.
- 久保田 信. 2011a. ムラサキオカヤドカリ(甲殻類, 異尾類)の海岸での本州初の幼生の放出の確認. 生物地理学会会報, 66: in press.
- 久保田 信. 2011b. 和歌山県白浜町の瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 生物地理学会会報, 66: in press.